

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100159		
法人名	有限会社スイート		
事業所名	ケアパーク和月グループホーム		
所在地	三重県桑名市大字太夫123番地2		
自己評価作成日	平成 25年 6月 8日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JivogvoCd=2490100159-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26年 6月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桑名市の中心部に近い閑静な住宅街に、3施設(デイサービス・小規模多機能ホーム・グループホーム)が隣接しており、介護が必要な高齢者を段階的に、かつ複合的に支援しています。北に伊勢太神楽(国の無形文化財)で有名な増田神社、南には桑名市指定天然記念物である大楠があり、四季折々の自然豊かな環境で、日々の散歩には絶好な立地といえます。認知症であってもその人らしく「普通の生活」をすることが大切と考え、日常生活の中でそれぞれの方が役割を持って暮らしていけるように支援しています。ご入居者が主体であり、スタッフはさりげなく支える黒子のような存在であることを事業所の指針としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔からの閑静な住宅街にある開所して4年目の事業所で、地域の行事や清掃活動に利用者や職員が参加しており近隣住民との関わりも深い。家族の面会も多く、運営推進会議に必ず家族が出席している。グループホームだよりを毎月発行し、家族等に事業所内での状況を報告し、事業所と家族との関わりも深い。管理者、職員はグループホームの10の約束を掲げて、利用者の持てる力を引き出すという考えで、さりげなく支えるという立場で支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に確認をしている。支援が上手くいかない時は理念を振り返ると、反省する点が見つけられ、その都度修正する事ができている。	職員のミーティングや研修時に、理念について確認している。利用者の持てる力を引き出すことを考えて、さりげない支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩や、祭りなどの年中行事に参加し、地域の方との関わる機会を作っており、顔なじみの関係、繋がりが築ける様に努めている。	散歩時の挨拶や地域の清掃活動への参加、地域のイベントや夏祭りへの参加等、地域の方との交流が多い。散歩時に農作業中の地域の方から野菜や季節の花の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を通じて、日頃の様子を、スライドショーを通じて伝えている。場面場面でどういう声かけをしているか等、ご入居者の表情を見て頂きながら伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居後の認知症ケア、取り組みによって、どう変化があったのか発表、報告し行政や地域に事業所の特徴を理解して頂いている。	2ヶ月に1回、隣接の小規模多機能と合同で開催している。自治会長、民生委員、市介護高齢福祉課、地域包括支援センター、利用者家族が毎回参加し、スライドを作成して、利用者の生活状況や行事について報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネは定期的に行行政の介護高齢福祉課に足を運び、紹介された入居者の現状報告を行う等、密に連絡をとっている。	市介護高齢福祉課、地域包括支援センターに、地域住民の相談、困り事等を聞いて、日常的に情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動を遮ることは、特段の事が無い限り行っていない。命の危険性が有る時は、家族の承諾の下、一時的に行うことはあるが、全スタッフが拘束は行わないという認識を持っている。	家族の了解を得て車イスのベルトをしている入居者が1名いる。常に見守り支援を行い、出ていく入居者があればさり気なく後を追ひ、無理やり戻さず、後で何処に行きたかったのか確認するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に行われる職員会議で研修を行っている。日常的に施錠はしておらず、徘徊時も寄り添うケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当されるご入居者はいないが、定期的に行われる全体会議で振り返っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、理念、運営方針、重要事項の説明を行っている。それらについての質問事項があれば詳しく説明を行い、ご理解された上で契約の運びとさせてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、毎月作成する報告書や最近の様子をお伝えしている。また2ヶ月に1回運営推進会議を開き、外部との交流を行い意見交換を行っている。	面会時や家族会開催時、運営推進会議等で家族の意見を聞いている。また、毎月発行するホームだよりで利用者の事業所での様子を報告している。家族の面会も多く、家族と職員の関わりを大切にして事業所の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りノートに各スタッフが気づきを記せるようにしている。現場の職員の声を聞くことで、質の確保につなげている。	申し送り時の記録を「気付きのノート」とし、職員が気軽に記入できるようにしている。「気付きのノート」は職員ミーティングで活用している。また、管理者は、職員の意見や提案を気軽に言えるように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が無理な勤務状況になっていないか、働く意欲が持てる環境であるか、代表者は積極的に関わりを持ち職員処遇への反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し、全ての職員が質を向上させていけるよう、定期的に学びの機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の認知症事例検討会やグループホーム協議会の研修に参加し、同業者との交流をする事で、日頃の事業所の取り組みの確認やさらなるサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面接を行い、可能であれば要望を伺い、困難な場合は、ご家族よりその思いを確認してプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談後、ご家族の困っている事を把握し入居前にお宅訪問を行い、実際生活していた所での困りごとや要望を確認して、初期プランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人とご家族の事情や要望をもとに事業所として出来る限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に主体はご入居者であり職員はできない所をサポートする黒子のような存在でいる。ご入居者も出来る事は進んで行う姿が見られるようになってきている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所頻度は非常に多く、ご入居者にとって安心感となっている。ご家族との時間は今までと同様大切にしており、ご入居者が穏やかに暮らすようになられ、以前よりも良好な関係が築かれているケースもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	よく行っていた商店街やパン屋に商品を買って行っている。店の方と挨拶や会話をされたりと馴染みの関係作りが続くように支援している。	友人と一緒に馴染みの喫茶店に行ったり、商店街のパン屋で買い物をしたり、いつも行っていた床屋・美容院に行けるように支援している。外泊時に家族とお墓参りに行っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きな家族という認識が各ご入居者にあり、健脚な方は車いすの方の介助をし散歩に出掛けたり、洗濯物を取り込んだりされており、常に支え合い生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居が必要となった場合は環境変化の弊害を最小にする為、ご本人の状況だけでなくケアの工夫等の情報を詳しく伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時にバックグラウンドアセスメントを作成し、生活歴や嗜好を把握している。またご本人の思いやりや希望は記録に残し、職員間で共有対応できるように努めている。	常に利用者に向き合い、一人ひとりの可能性を見つけ、生活歴を配慮し、趣向の把握に努めている。また、思いや意向を記録に残して情報を職員間で共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問をさせて頂くことで、どのように生活してみえたかを実感する事により、より自宅にいる時の環境に近い状態で暮らしていけるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録には、その時に発した言葉を記載する事によって、心身状況を把握する事ができるので、出来るだけ多くの言葉を残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員がそれぞれ担当を持ち、積極的にご家族との関係作りができるよう取り組んでいる。ケースカンファの前に、職員全体の意見、気付きを出し合い、それを元に話し合い、プラン作成としている。	プラン作成前に担当職員がまとめた意見を参考に職員全体でケースカンファレンスを実施し、ケアプランを作成している。3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録、バイタルチェック表を中心に記録をしている。上手く促せた場合の声かけ等を記載し、職員間で共有している。介護計画の達成については漠然と評価するのではなく、回数を参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の急な体調の変化には、緊急受診等、迅速に対応している。家族様での受診が困難な場合は職員での対応を行っており、安心して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院やコンビニ、パン屋など散歩を兼ねて出掛けており、楽しみの一つとなっている。それぞれの店員との会話も、日常生活の刺激になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医が基本、主治医となっており、ご家族で対応して頂いている。必要に応じて、通院資料の作成やスタッフの付き添いも対応している。	利用者のほとんどがかかりつけ医であり、受診は家族が対応しているが、状況によっては職員の付き添いで受診する場合がある。また、小規模多機能ホームの看護師に相談し、助言を受ける場合がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違った状態がみられた際は、即看護師に連絡し見て貰っている。必要に応じて受診の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を作成し、スムーズに医療が受けれるように、日常生活を伝えている。入院が長引き元の状態になり難くならないように、出来るだけ早期退院してもらえるように、病院との連絡を小まめにとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時やご入居者の状態に応じて、終末期の対応については説明させて頂いており、同意書を交わしている。重篤化した場合は、かかりつけ医師、看護師と連携し、随時対応できるように努めている。	過去に主治医・看護師・職員・家族が協議し、看取りをした事がある。入居時に重度化した場合における(看取り)指針を説明し、看取り介護を始める時は同意書を家族と交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム入口にはAEDを設置しており、定期的に応急手当の研修を行って緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、非常時に対応できるように、マニュアルを元に動いている。	年2回、消防署の指導で防災訓練を実施している。避難訓練や消火訓練等を実施し、消防職員から具体的な避難誘導や消火機器の取り扱い方等について訓練を行っている。	夜間の火災や震災等を想定した避難誘導訓練の実施や、職員会議時に夜間火災等を想定した机上訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要時以外は居室のドアの開放は行っていない。羞恥心の伴う事はさり気なく声かけ、見えない様にしプライバシーが損なわれない様に配慮している。	居室のドアは開放しない、トイレ等の声掛けは小声でさり気なく行う等、入居者の気分を損なわなように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制的な声かけではなく、基本は疑問形で声かけをする様にしており、ご本人に決定して頂けるような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間は全員同じ時間にするのではなく、その人のペースやその日の状態に応じて対応している。外出や買物等、希望があれば出来る限り実現できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、肌の手入れ、化粧などは、出来る方には自由にして頂いている。困難な方には、その季節、その日の気温に応じた物を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立、材料は業者に依頼しているが、その材料の中で皆で考え、その場で対応できるメニューならば、変更し、皆で作りに上げていくことを念頭に置き、作っている。	献立と食材は業者に委託しているが、食材を見て利用者と職員で対応できるメニューに変更し皆で担当を決め、料理を作っている。盛り付けや配膳後片付けを利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はその人に合わせた大きさ、固さ、量を考慮し、バランスよく召し上がって頂けるように提供している。水分は飲んで頂ける物（お好きな物）提供しており、水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1日2回など、その人の生活習慣に合わせて口腔ケアを声掛け、提供している。義歯は毎日洗浄消毒を基本にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。立位ができず、尿意や便意が訴えられない方も1日1回はトイレに行き排泄を促している。	声掛けをして出来る限りトイレで排泄出来るようにしている。自分で訴えることの出来ない方には、排泄チェック表を使ってトイレ誘導をしている。夜間についても可能な限りトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト等の乳製品を毎日摂って頂けるようにしており、出来る限り1日1回は屋外へ出て頂いたり、体操や日常生活の中で体を動かして頂けるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後とし、ほぼ決めているが、ご本人の希望、体調や気分に応じて日にちを変えたり時間をずらし対応している。	週に2回から3回、毎日午後3時過ぎから入浴できる。季節感のあるゆず湯・菖蒲湯等、利用者が希望する入浴剤を毎日使用して入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりがゆっくり休んで頂けるよう、ご自宅で使っていた掛け布団や毛布、電気アンカ等、自由に持ってきて頂き使われている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬はいつ、何の薬を飲んでいるか、どのような作用があるのか、職員全員が把握できるように努めている。内服薬の変更はその都度申し送りを行い、伝達、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にとっての役割や楽しみは何か、バックグラウンドアセスメントや、日々の生活の中で見つけ出し、職員間で共有し、継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望に沿って、美容院や化粧品、嗜好品などの買物、喫茶店などに出掛けている。毎月1回は外食がてら、お店に行ったり、公園に花見に出かけている。	事業所周辺の散歩、季節ごとの花見、いちご狩り、買い物や外食、石取り祭鑑賞、伊勢大神楽見学等、利用者の意見を聞きながら多様な外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時、可能な方はご自分の財布を持ち、店頭で支払をして頂いている。小銭を出してもらおう等、さりげなく促しを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や兄弟など、電話でのやり取りは自由にできるようにしており、必要のない限りはスタッフは付き添わず、ゆっくりお話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や作品を作り、季節を感じ取って頂けるように取り組んでいる。理解しにくいテレビをつけているのではなく、昔よく聴いた唱歌や懐メロ等をかけ、落ち着いて過ごして頂けるようにしている。	廊下、居間兼食堂は広くてゆったりしており、食堂の横にはソファと机がありゆっくり寛げるようになっている。また、廊下の奥に壁掛けのテレビとソファが置かれ、談話コーナーとして利用している。部屋の入口に利用者が作った風鈴やあじさいの貼り絵が掛けてあったり、季節の花が各所に飾られており、季節感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブル以外はソファや少し離れた場所に談話コーナーがあり、食後ソファでくつろがれたり、のんびりお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が過ごしやすい、使いやすい空間になるよう、ご自宅で使い慣れた物を持ってきて頂いたり、写真を飾ったりと、安心できるスペースになるよう工夫している。	家族との記念写真や貼り絵等が貼られている。持ち物はクローゼットに収納されており、整理整頓され清潔でゆったりとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	机やイスの位置は車イスの位置は車イスの方や歩行器を使う方でも自由に移動ができるような、空間作りをしている。各所に手すりを設置し、残存能力を活かせるように促し声かけを行っている。		